

へることあり又天明二年の春新見某九段坂を馬にて通りけるに落馬して數十丈の深き牛が淵にまろび墜たれども人も馬もいさゝか傷ことなしされば衣服を改るまでにて事故なかりき此事を聞人いとも不思議なることとて尊き護符にても持たれしやと尋ね問ければさればよ或年吾領知にて雉子を一羽射とめんとまけるにその矢それて中らず再び射れども中らずか、ればさまゝ思ひを廻らし術を以て捕え得て見るに翼に四の文字あり今その字を記して懐中せりその験しにてもあるべしと云耳とあり何れも正しき記録なれば信するに足れり

〔閑窓自語〕靈元院疫癘和歌事

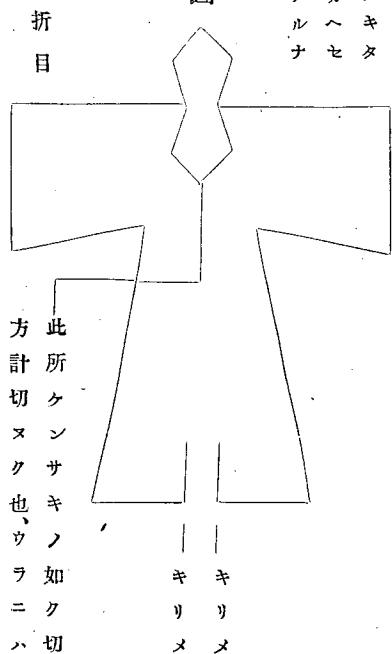
享保八年病はやりて人民多くうせぬ靈元院の御うたあり風ふかば本來雲のそらにふけ人にあたりて何の疫癘此御製を都鄙聞つたへてかきまゐるし守りとせしにやめるものはやく治しやまざるものは大かたのがれけるとぞ

撫物

〔貞丈雜記十六神佛〕なで物と云は是も陰陽師に祈禱を頼む時陰陽師の方より紙にて人形を作りて遣すを取て身をなで陰陽師の方へ送れば其人形を以て祈禱する事有扱後に川へ流す也○

如此切ヌキタ
ルヲ切カヘセ
バ頭ニナルナ
リ

かたまろの圖



ひな形といふも此事也
紙二枚重ねて二つに折
て折目を上にして如此
きる也大小不定

此所ケンサキノ如ク切リヌク也前ノ
方計切ヌク也ウラニハ此切貫ナシ